

【おすすめ掲載内容】

- アテンダント立佞武多 今年も運行… 1面
- 何かに頑張っている人たち…………… 2面
- 乗り物に乗って途中下車…………… 2面

季刊発行 第1号

津 軽 半 島

THE TSUGARU-HANTOU TSUUSIN

通 信



特定非営利活動法人
津軽半島観光アテンダント
推進協議会

〒037-0063
青森県五所川原市大町39 (津軽鉄道(株)内)
電話 0173-26-7520
FAX 0173-26-7521
ホームページアドレス <http://t-ate.com>

私達が「津軽半島観光アテンダント」です

去る二〇一四年四月一日より、私達「津軽半島観光アテンダント推進協議会」が特定非営利活動法人としてスタートしました。メンバーは五名。津軽鉄道の列車へ乗車しお客様へ観光案内をする事、これまでと同様に常に新しい挑戦をしていく事ももちろんの事、二〇一六年三月までに開業予定の北海道新幹線開業を見据えた津軽半島への観光客誘致も視野に、常に情報発信や、イベント企画・運営等、津軽半島に住む皆さまと全国のお客様とのパイプ役を担う事が出来たらと思っております。

そして季刊紙「津軽半島通信」も装いを新たに今回発行号より更にパワーアップした津軽半島の魅力満載の情報を提供してまいります。津軽半島の旬な人、物、食等を県内外の方に知って頂くことにより、沢山の方が「一度ならず何度でも訪れてみたい」そして「住んでいて良かった」と感動を共有する事が出来る季刊紙にしていきますのでお気軽に「ご覧下さい。ぜひ一度は津軽半島へ遊びにきてみて下さい！」



アテンダント立佞武多 今年も運行

津軽半島観光アテンダントでは、今年も地元出身の著名作家である太宰治の立佞武多を制作・運行することになりました。本格的に制作するようになって3年目の今回の題材は「パンドラの匣(はこ)」です。この作品の最後にある「伸びて行く方向に陽が当たるようです」という文章。この「伸びて行く方向に陽が当たる場所」は魅力いっぱい「食」「景色」「人」「伝統」がある津軽半島そのものではないかと私達は考えました。



いつまで経っても変わらない存在であり大きな心を持つ、その大きな心となるのが、津軽伝統を代表として一〇〇年以上に渡って愛伝された金多豆蔵(きんた・まめじよ)として表し、そんないつでも変わらない津軽にこそ、皆さまの心の奥底に眠る感動や情熱があり光へと繋がっていくという願いと思いを込めた絵と題材にしました。ただ今絶賛制作中です。私達が立佞武多を制作する過程は、毎日のブログやfacebookで更新していますのでぜひ運行する8月本番まで楽しみにしていただきたいと思います！

「お花列車」運行しました!

せっかくお花見に来ていただいても、思い通りにちようどよく満開とはいかないのが自然というもの。そんな皆さまに少しでも、列車内で春のお花見気分を楽しんでもらおうと、去年始まったのが、お花列車です。好評につき、今年も引き続き運行することになりました。

今年のテーマは、「夜桜」と「しだれ桜」。真っ黒い紙に桜の花を模したピンクの色紙をふんだんに飾り付け、ピカピカと輝く電飾は、舞い落ちる桜の花びらをイメージしてみました。天候不順と鳥による被害により、ほとんど花のなかった昨年と異なり、みごと満開となった今年の金木桜まつりでしたが、列車の中と外、そして跨線橋の飾り付けと、今年は例年にも増して、桜いっぱいのお花見を皆さまにお届けすることが出来ました。



アテンダントの仕事

この春もお花見のため、沢山の団体の方に来ていただきました。そんな時に重要になってくるのが、誘導のお仕事。大型バスで駅に到着した皆さまを、安全に列車まで案内します。

しかしこの時にやって来る団体、一つの団体とは限りません。特に人の多い時期ですと、2、3団体が一緒に乗り合わせることもよくあります。そんな時、アテンダントはまず、早めに駅に行き、添乗員さんと打ち合わせをします。乗車する列車は何時に入線し、何両目に席を用意しているのか等説明をしてから、お客様の先頭に立って歩き、車両までご案内します。

